

◇ 目 次 ◇

- | | |
|-------------------------------------|---|
| P2 瀬戸内海国立公園指定 80 周年記念式典・フォーラムに参加・出展 | P7 南大東島の次は小笠原諸島へ |
| P3 柴原前自然保護官の転勤挨拶
武石自然保護官挨拶 | P8 環境省主催「研修会」 |
| P4 入浜池補足調査②
平成 26 年度「環境の日」広島大会 | P9 包ヶ浦海岸清掃
干潟のいきもの観察会下見 |
| P5 嶽島神社前海浜清掃
入浜定点観察①および維持管理作業 | P10 宮島二流記 (その 19) |
| P6 入浜定点観察②および維持管理作業 | P11 「PV の会」展示用パネル・パンフレット完成
「入浜池調査報告集 (その 2)」発行
編集後記 |



H26.5.31 コチドリ 入浜の浜辺



H26.6.24 コチドリの雛 入浜の浜辺

「入浜の鳥達」

鳥たちにとって初夏は繁殖の時期です。昨年に続き浜辺でコチドリのペアの姿を確認し、6月下旬には健気な巣立ち雛 1 羽を見かけました。当地でコチドリの繁殖確認は初です。6月 14 日にはカルガモ 2 羽も入浜池で泳いでいました。長年の維持管理作業で綺麗になった環境のおかげではないでしょうか。 (文・写真 大西 順子)

環境省人事

(平成 26 年 6 月 1 日付)

柴原自然保護官が立山自然保護官事務所へ転任され、後任に武石自然保護官が着任されました。

(武石・柴原さんの挨拶文は P3 に掲載)

(2)

みせん

「瀬戸内海国立公園指定 80 周年記念式典・フォーラム」

に参加・出展

日 時：7月 12・13 日

場 所：高松市 「サンポートホール高松」
(主 催：瀬戸内海国立公園指定 80 周年記念式典実行委員会)

参加者：岩崎 末原 松尾 村上

「瀬戸内海国立公園指定 80 周年記念式典」
に参加して 村上光春

昨年、瀬戸内海環境保全功労者表彰を頂いたご縁もあって、この度高松市で開催された「瀬戸内海国立公園指定 80 周年記念式典」に出席し、またサイドイベント「環境保全活動パネル展」へ出展しました。

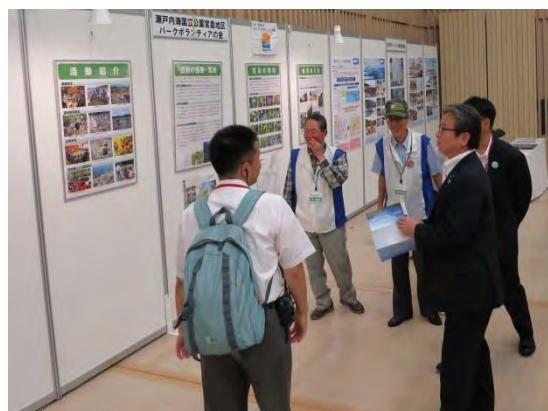
式典の趣旨は、備讃瀬戸を中心とする瀬戸内海地域が、わが国最初の国立公園に指定されてから 80 周年を迎える瀬戸内海の優れた景観を再認識し、さらに瀬戸内海の自然と文化を保全し、次世代へ伝えようとするものです。

遠く広島からは、式典準備の様子は全く想像できませんでしたが、高松市に着くと、歓迎の旗幟、案内板やポスターそして式典スタッフの配置などから、瀬戸内海国立公園誕生の地である地元の熱意と自負心をもろに感じました。

式典では、恒例の式辞・挨拶、表彰式等に加え、盛りだくさんのイベントが、例えば川井郁子氏のバイオリン演奏、演出家宮本亞門氏の基調講演「美の海廊 瀬戸内海」、国立公園指定 80 年の軌跡展、小中高生の瀬戸内海の風景絵画コンクール作品展、さかなクンの「おさかなこうざ」などが開催され、有意義で楽しいものでした。



(式典の様子)



(当会のパネルを視察中の
北川環境副大臣)

今、時を同じくして、瀬戸内海環境保全基本計画の変更案が公表されています。海砂の採取を原則認めないことをあらためて明示し、従来の水質・景観保全に加え、生物多様性と水産資源を確保する「豊かな瀬戸内海」の再生を目指しています。

これから 10 年後の国立公園指定 90 周年時に、瀬戸内海はどこまで再生されているか、多いに期待していきたいと思います。



(懐かしい西自然保護官)

(写真 岩崎・松尾)

柴原前自然保護官の転勤挨拶

宮島地区パークボランティアの会の皆様へ

六月一日の辞令をもちまして立山自然保護官事務所に勤務することとなりました。年度始まりもつかの間、パークボランティアの皆様には十分な挨拶ができないまま異動してしまい失礼いたしました。

自然保護官として最長の二年二ヶ月を広島で、そして皆様と過ごすことができたのはこの上ない喜びです。皆様と過ごした時間の中でパークボランティアの運営とともに何度か研修会において私がお話しする機会を与えていただきました。これは私が携わっている仕事である自然のことや国立公園のことをどれだけわかりやすく間違いなく伝えられることができるかという自分自身の課題でもありました。うまく伝えることができたかは定かではありませんがお付き合いいただいたこと誠にありがとうございます。七月の研修会でお話ができなくなってしまったことは残念でなりません。

立山自然保護官事務所は中部山岳国立公園の富山県側七万六千ヘクタールを管轄します。管内は、立山連峰をはじめとする北アルプスの雄大な景観とライチョウや高山植物をはじめとする貴重な生き物があり、年の半分を雪氷に覆われ、「地獄谷」と呼ばれる噴煙地は火山ガスの噴出が激しく、人には厳しい自然環境にあります。今年十二月には指定八十周年を迎える、宮島と同じ平成二十四年に「弥陀ヶ原」という高層湿地が「ラムサール条約」に指定されました。いわば同級生の国立公園に赴任するかたちになったのも何かの縁と思っています。

こちらに赴任してから瀬戸内海国立公園の柔らかな自然の美しさを感じている次第です。早春に茂る藻場、盛夏の昼下がりの静かな潮汐湿地、「しまなみ」に映る夕日、雨霧の中の弥山登山道等あればきりがありませんが、瀬戸内海国立公園にはどこかに必ず人の営みがあり、その中にある自然の美しさ、優しさこそが魅力なのだと思います。

こちらでは今ライチョウが恋の季節で、オスは縄張りを守るのに必死です。立山は

柴原さんの後任自然保護官 武石俊ハさん あいさつ



阿蘇自然環境事務所から異動してまいりました武石です。前任地は阿蘇くじゅう国立公園で火山と草原景観を魅了する地域でしたので海に触れる機会もなく、今回私にとって初めて海がある勤務地です。瀬戸内海国立公園は多くの島々がある素晴らしい景観が魅力の国立公園との印象で、その中でも宮島は文化的景観と原始林など豊かな自然が残されている事を魅力に感じております。

広島事務所に赴任しまして活発に活動されている宮島地区パークボランティアの皆さんとお話しをさせて頂いたなかで、この宮島を大事にされている事が伝わり、皆さんと活動できることを嬉しく、また頼もしく感じております。宮島の歴史や自然について学んでいきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。



(ライチョウと
立山杉)

高山ばかりでなく麓は天然杉の巨木林などもあります。機会がありましたら是非ともご案内いたしますので、お立ち寄りください。

最後になりましたが、皆様のますますのご活躍とご健康をお祈り申し上げ、広島勤務時代のひとかたならずお世話になりましたこと、心よりお礼上げます。



入浜池補足調査②

日 時：5月 31日（土）10：00～12：00

天 候：曇り

参加者 大西 小川 黒木 小林ペア

中道 松田 横路

【植物】 中道 勉

ハンゲショウが非常に繁植していた。

海岸のハマナデシコは塩害のせいで無くなったのか。

【水質】 横路 晃

塩分濃度は海岸近くの A 地点は 0.13%

B 地点 0.11% 山側 C・D 地点は共に 0.00% これは山から湧水が出ている証拠でしょう。海水は 2.6%

COD は山側 5.0 他の地点は 10～7 山水は 5 できれい。

PH は 6.1～6.6 普段より低い。山水は 7 海水は 7.7

水温は山水 16.9℃ 池の水は 20℃～27℃で、山の水は冷たく感じられる。流入口の状況は今日の潮位が低いので流入した形跡は見られないが、昨日か一昨日には流入した形跡があったので、潮位が高いときには流入しているのではないかと思われる。

【トンボ及び水生生物】 松田 賢

トンボは春真っ盛りという感じで新しく 4 月～5 月に羽化した新成虫がたくさん見られた。イトトンボの仲間ではクロイトトンボ、アオモンイトトンボ、ホソミオツネントンボ。ヤンマ類はクロスジギンヤンマ、サラサヤンマ（春に出てくる種）、ギンヤンマ。トンボ類はシオカラトンボ、シオヤトンボ、タイリクアカネ、ヨツボシトンボ（春限定種）、ハラビロトンボ（夏に多く見られる）、ショウジョウトンボ（成熟すると真っ赤になる）。

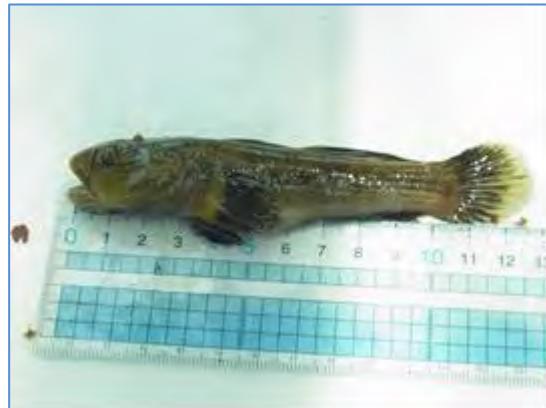
ヤゴはタイリクアカネとクロイトトンボの 2 種が確認された。

チョウの仲間はテングチョウ、イシガキチョウ、モンキアゲハ。

水生の生き物ではメダカ、チチブ（今まで確認された中では一番大きかった。）テナガエビ、コミズムシ、他にはウバタマムシ（アカマツ林につく）、ルイスハン

ミョウ（広島県準絶滅危惧種）以上が今回確認できた種です。

（チチブ）



【確認できた鳥】 大西 順子

アオサギ、ホトトギス、コチドリ（2 羽ペア？）、ミサゴ、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ（子育て中の親・巣たちの雛）、シジュウガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、キビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ（囀る成鳥と巣立ち雛）

以上 16 種

平成 26 年度 「環境の日」 広島大会

日 時：6 月 8 日（日）10：00～16：00

場 所：県庁前広場

主 催 者：「環境の日」ひろしま大会実行委員会

参 加 者：岩崎 村上

環境省 大高下 AR

当会も例年どおり環境省広島事務所のブースの一角を借りて、「PV の会」の紹介ポスターを貼りました。



今年の注目？広島に新たに発足したプロバスケットチーム「広島ドラゴンフライズ」でした。由来はもちろん「ミヤジマトンボ」からです。（文・写真 岩崎義一）

厳島神社前海浜清掃

日 時：7月 11日（金）13:00～14:30

天 候：曇り

参加者 小方（嗣）恩田 北野 五石

小林（勲）佐藤（佐）佐藤（庸）末原

田中 中道 錦織 平田（攻）平野 三次

柳瀬 山崎 山本 横路 吉崎 呼坂

台風 8号の影響を心配しましたが、好天に恵まれ弥山からの涼風で暑さもあまり感じませんでした。今年もアオサやゴミの量が少なくて、約1時間の作業でした。綺麗なった海浜を見て清々しい気持ちになりました。（文・写真 末原 義秋）



（清掃中の会員たち）

入浜池定点観察①および維持管理作業

日 時：6月 14日（土）9:00～14:00

天 候：曇り

参加者 岩崎 大西 小川 奥田 黒木

小林（勲）佐藤（佐）渋谷 末原 中道

平田（広）村上 山本

【環境整備】 末原義秋

水路ではイノシシが至る所で土のうを崩していたので土嚢の積み替え作業と水の流れを良くするための水路清掃と海岸のゴミ拾いを行った。

【植物】 山本昌生

咲いている花はホウロクイチゴ、テリハノイバラ、ハンゲショウ。そしてマンリョウの実が赤く色づいてきれいだった。またカンコノキが湿地のところに実生がびっしり生えていた。乾燥しているところでは無かったので環境の違いが大きいのかなと思った。その中で何本生き残るかおもしろいところです。ハンゲショウの花が咲いてい

ると、葉っぱが白くなるのでカタシログサともいわれています。

【水質】 小川加代

CODはA地点で20、B地点で10、奥側のC地点で5、流入口は7。塩分濃度はA地点で0.14、C'地点で0.00、流入口で0.77でした。水路の土のう袋が崩れて水の流れが悪かったのかあちらこちらで水溜りができていた。

【昆蟲】 松田 賢

トンボは2週間前の補足調査の時よりかなり少なかった。成虫で越冬するホソミオツネントンボ、アオモンイトトンボ。池の周りをパトロールしているギンヤンマ、他はシオカラトンボ、オオシオカラトンボの以上5種でした。



（ホソミオツネントンボ）

これから時期は、ヤゴから成虫になる時期ですがいろんな条件が重なって一気に出るときがあり、出てしまうと成熟するまで水場を離れて餌を取る習性があるので、池の周りではあまり見られないタイミングがある。今はちょうどその時期ではないかと思います。

チョウの仲間はアサギマダラ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、ルリタテハ、クロアゲハ、モンキアゲハ、イヌビワにつくイシガケチョウ。ホウロクイチゴの花にはハキリバチの仲間がたくさんいました。

水生昆虫はカメムシの仲間のチビミズムシがたくさん見ることができた。

【野鳥】 大西順子

前回に引き続きコチドリ2羽。このことは特筆すべきことだと思います。シジュウガラ（電柱を使用して子育て中。餌運びに励んでいました。）。（以下次ページへ）

（6）ミサゴ（幼鳥と思われ、ずっと枯れ木に止まつたままだった。巣立ちはしたものの、自身では餌がとれないのか親が運んでくるのを待っているようだった。）。他にホトトギス、ウグイス、ホオジロ、キビタキ、コゲラ、ヒヨドリ、トビ、ハクセキレイ。なお後日、コチドリの巣立ち雛1羽を確認することができました。卵は3~4個産んでいるはずなのですが・・・ほかの雛はかくれていたかもしれませんね。繁殖成功！

入浜定点観察②および 維持管理作業

日 時：7月26日（土）9:00~12:00

天 候：晴れ

参加者 大西 小川 恩田 黒木 小林ペア

未原 兎谷 中道 錦織 平田（広） 松田 村上
山崎 横路 六重部

【環境整備】 黒木隆信

35℃を超える厳しい暑さの中での作業であった。池の水路は前回行った整備状況を維持しており、今回は海岸のゴミ収集に取り組んだ。50~60kgのゴミを収集し11時頃作業を終えた。

【植物】 六重部篤志

この時期に咲いている花はミミズバイ、シャシャンボ、ハスノハカズラ、ハマゴウ、ハマゴウは例年より花が少ない。種から流れ着いたのかキヨウチクトウの花が咲いていた。小さなコケオトギリの花が咲き誇っていた。

【水質】 小川加代

PHは全体的に低かった。A地点6.2、B地点6.2、C地点5.9、D地点5.9、F地点6.4。塩分はA地点0.07%、B地点0.09%、流水口のF地点0.15%。CODはA地点10、B地点10、C地点13、F地点5。C'の山から水が流れ出ているところには緑色の藻が異常に繁殖していた。原因は解らない。

【昆虫】 松田 賢

夏のトンボ7種類しか確認できなかった。原因は気温が高すぎのためか？

まず、シオカラトンボとオオシオカラトンボが一番多かった。同じシオカラトンボ属のミヤジマトンボがいる生息地とは環境がかなり違うようです。そのほかギンヤン

マが池の上をパトロールしている。イトトンボの仲間はアオモンイトトンボと夏に出てくるキイトトンボ、広い水面が好きで飛びながら卵を産むオオヤマトンボ。和名の通り腹部が扁平で太短いハラビロトンボ。

水中昆虫はハイイロゲンゴロウ。コガネムシの幼虫を食べるツチバチの仲間、枯れた松につくウバタマコメツキムシそして広島県準絶滅危惧種のヤマトマダラバッタ、キヌゲハキリバチも確認できた。



（ハラビロトンボ）

【野鳥】 大西順子

ウグイスの鳴き声、ミサゴ6羽、シジュウガラ、トビ、ヤマガラ、カワラヒワ、ホオジロ。カワセミを見たと言う声があった。

投稿

『みやじまPVの夏』

黒木隆信

山雀の聲音尾を引く入江かな
やまがら

青草を食む音高し挫傷鹿

日盛りの岩根に花の浜払子
はまほつす

蝮の子あはれシャベルに首打たれ
まむし

熱弁のヒヨウモンモドキ夏期講座

南大東島の次は小笠原諸島へ！

聟島、父島列島、母島列島、硫黄列島、沖ノ鳥島、南鳥島、西の島で構成される小笠原諸島！ここは宮島同様、世界遺産で有名！そして東京都の一角、小笠原丸で約1000Km先、約26時間の果てにある南の島だ。前回、南大東島を訪れた際、小笠原から渡ってきた人々が南大東島を開発したという話をきき、小笠原ってどうなんだろう？そこで今回、2000人が住んでいるという父島（23平方km）を6泊7日で行ってきた。



早朝 竹芝桟橋から大型フェリーアル・カミツル号に乗船。考えたこともない26時間の船旅である。外洋ということもあり揺れを覚悟！歩くたびに、フラフラの状態。ひどかったのは、深夜2時頃、就寝中の全員が50cm位移動した。先月、韓国フェリーが転覆した事故があったが、あれで荷物が移動してれば外洋で転覆？ということはないでしょうが、全員が「わー！きやー！」。翌朝、無事に父島二見港より上陸。ガイドスタッフが出迎えてくれました。

島の1日目は車で島の西側へ、三日月山展望台で島の表情を観察・散策です。南大東島でも見たモモタマナが実を付けています。ここにもオガサワラオオコウモリがいて、やはりこの実を好んで食べると言う。ここ小笠原諸島は文禄2年に家康の命により船出した小笠原貞頼が発見したという大陸とは陸続きになったことのない島。固有の自然があるこの島だが、ガジュマル、リュウキュウマツ、アカギといった持ち込み樹木やヤギ、ネズミ、アフリカママイマイといった持ち込まれた動物たちが本来の自然を壊しているそうだ。

2日目はガイドさんの案内でトレッキング。入口には靴の泥落とし、殺菌のための酢スプレーで身綺麗にしてコースに入る。流石に今は外来種持ち込まない、持ち込ませない仕掛けがしっかりとしていると思った。しかし、以前に持ち込まれた、例えばリュウキュウマツの影響であろうと考えられているのがマルハチという大きなシダの仲間が枯れて少なくなっているという。ヤギに下枝を食われたタコノキなども見かける。自然を残すため色々な駆除、駆逐も進めているとは聞くが難しいらしい。トレックコースでは旧日本軍の残骸が「ニッサン」「トヨタ」の名の元に放置されている。運搬用のトラックは兵器に非ず？米軍も処分しなかったためらしい。トレックの最終地はハート形の断崖「ハートロック」その上から見ると海のブローアイング（ザトウクジラの潮吹き）が見られる。

3日目はクジラウォッチングで身近に見ることになる・・・。クジラの後は、南島に上陸し、アオウミガメの産卵場所、ヒロベソカタマイマイの残骸を見る。

4日目はガイドなしで自分たちでツアーを組みます。最後に訪れたのが、島のビジターセンター。近くのコース紹介、動植物の剥製等展示、宮島でもこんなビジターセンターあれば、自然に対するお客様の見方も変わらぬのかな？って思いつつ、小笠原丸に乗り込む。



(トラックの残骸)



(ハートロック上から眺める)



(クジラウォッチング)

4日間滞在の父島。出港時には、島民全員の「いってらっしゃい」の旗に見送られ、島民・すべてのクルーザーに湾外まで見送られ、揚句には海中ダイブの荒業までみせてくれて見送られた。実に感動ものである。

そして、次の小笠原丸がくるまで島は一時の休息を迎えることとなる・・・

（編集：南大東島と2部作です。それにしてもうらやましいですね！）

（文・写真：北野 孝幸）



環境省主催「研修会」

日 時：7月5日（土）13:00～15:30

場 所：宮島市民センター

主 催：環境省 広島事務所

参加者 足立 岩崎 大西 小方（嗣）小川

奥田 恩田 金山 釜谷 北野 黒木 小林ペア

小林（寛）佐渡 佐藤（佐）佐藤（庸）島 末原

兎谷 中道 野呂田 平田（攻）平田（広）檜和田

佛崎 弁田 松田 宮本 村上 柳瀬 山崎 山本

横路 吉崎 呼坂

環境省 武石自然保護官 大高下AR

次の3演題の講演がありました。

1.「阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域の紹介」

武石俊八自然保護官

「阿蘇くじゅう国立公園へ！」九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所作成のパワー・ポイントによる説明でした。

同公園は、7市町村（人口 7.1万人、カルデラ内 4.7万人）で構成され、牛の飼育農家が1300戸、年間1700万人の観光客が訪れる。特徴は草原景観や火山（周囲 100km、東西 18km・南北 25km）で、瀬戸内海国立公園と同様今年80周年を迎える。ヒゴタイ・サクラソウ・中岳・米塚・ミヤマキリシマなど有名です。

公園の利用施設としては、環境省の「南阿蘇ビジター・センター」があり、特に「阿蘇野草園」にはパークボランティアが常時2~3人が常駐している。現在は「世界農業遺産」に登録されており、さらに「阿蘇世界ジオパーク」への登録をめざしている。

ガイド・ブック（地図、A・2版、ポスター1枚）も作成されています。

2.「宮島及び県内の希少な昆虫について」

広島市森林公園昆虫館学芸員 坂本 充

① RDB（レッドデータブック）について

・IUCN（国際自然保護連合）版

・環境省版

・広島県版（8種の絶滅種がある。）

② 生物多様性とは

生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性

③ 生物多様性を脅かすもの

・第一の危機 森林伐採、埋め立て、水質汚濁、狩猟や乱獲

- ・第二の危機 ため池、草原や耕作地の利用不足・放棄などによる減少や消失
- ・第三の危機 侵略的な外来生物、化学物質や在来種との交雑による遺伝子汚染
- ・第四の危機 地球温暖化による気温や海面上昇、異常気象の発生など

④ 広島県（昆虫）の絶滅種・絶滅危惧種の現状

⑤ 「ミヤジマトンボ」について

・発見の歴史 1911年中国・廣東（カントンシオカラトンボ）、1928年中国・福州、1936年宮島、1959年宮島で再発見

・特徴 ミヤジマトンボ 尾が白くなる。シオカラトンボ 尾が黒くなる。オオシオカラトンボ 翅の先が黒くなる。

・生育環境 大型台風の影響、湿地の狭小化、流路の崩壊、アオサの腐敗、淡水プール化、他のトンボ類のヤゴ類の増加

・今後の対応 良好的な生息環境の保全、劣悪な生息環境の改善、新たな生息環境の整備

・その他 300m離れた新たな生息地に大きさがバラバラなミヤジマトンボの幼虫（ヤゴ・違うメスから産卵した）を発見



（講演中の坂本さん）

3.「宮島での土地利用に関する法律」

会員 末原義秋

宮島は面積 3309ヘクタールの島ですが、土地の管理者・所有者は都市公園地（広島県）、国有林野（林野庁）、環境省直轄地、公共用地（広島大学、文部科学省）及び私有地の多岐にわたる。法律は自然公園法、文化財保護法、都市計画法、都市公園法、森林法、鳥獣保護及び狩猟に関する法律、ふるさと広島の景観の保全と創造に関する条例など。また ラムサール条約登録を機に「宮島特定動物生息地保護林（林野庁）」、「ラムサール条約登録湿地区域」が新しく制定された。

（文 平田広三郎 写真 北野孝幸）

包ヶ浦海岸清掃

日 時：7月 19日（土）9:00～13:00

天 候：晴れ

参加者 足立 岩崎 大西 奥田 川崎

小林ペア 坂本 佐藤（佐）佐藤（庸）

渋谷 島 末原 穂谷 中道 平田（広）

舛田 村上 吉崎 六重部

平成 18 年から始まった真夏の恒例行事も今年で 9 回目（2 回雨天中止）となり、梅雨明け前日の暑い日差しの中で、各自熱中症対策をとっての作業となりました。

例年のように海岸に漂着した竹、木材を始めペットボトル、空き缶、カキ養殖用のパイプなど、新たに宮島地区で使用するボランティア清掃用黄色の収集袋に集めました。また松の枯木を裁断して運ぶなど、一帯が見違えるほど綺麗になりました。皆さん暑い中、ご苦労さんでした。



（小さなゴミも丹念に
拾い集め・・・）



（宮島のボラン
ティア清掃用袋）

作業の後はキャンプ場に移動し、島さんなどに準備していただいた、バーベキューパーティで和やかな、楽しい懇親会となりました。（文・写真 足立 清）



（作業の後は
一段とうまい）

干潟のいきもの観察会下見

日 時：7月 24日（木）14:00～16:00

天 候：晴れ

場 所：嚴島神社・大鳥居周辺の干潟

参加者 大西 小方（嗣）北野 小林（勲）

佐藤（佐）中道 村上 呼坂

暑い日が続く中、7名で実施、当日のサポートを不安させる人数での下見でした。

まず、リーダーより『参加者に「なぜかな？どうして？」等を問い合わせながら主催者側から結論を先に出さないで一緒に考えながらすすめていこう。』とレクチャーを受ける。

始めに海の掃除屋さんのアラムシロガイの生態を調べるので水の流れの中に魚を置きました。すると流れの下流にいた貝がその魚に向かっていきます。その魚の上にカラスが来ないようにカゴを伏せて次の場所に移動する。危険な箇所がないかを見渡しながら観察をする。

ハクセンシオマネキがたくさん出てくる所で腰を下ろしてずっと静かにしているとハクセンシオマネキが穴から出てくる。その仕草は見ないと感動できないことです。早く当日が来ないかなと思った。そしてマテガイのいる場所を確認してから、アラムシロガイの生態を調べるところに帰ると魚は骨だけになっていました。色々な体験ができる干潟観察会の下見でした。



（ハクセンシオマネキ）

（文・写真 小林 勲）

“新規会員の募集”

を環境省に要望中

当会もご多分にもれず会員の高齢化が進んできました。また 会には常に新鮮な息吹が必要です。会員の身近に意欲のある方がおられれば会まで連絡を！

宮島二流記 (その 19)

平田広三郎

Q19:「役行者小角（えんのぎょうじゃ おづぬ）と宮島のかかわりはどのようなものだったでしょうか？（以下役小角）」

宮島弥山 大本山「大聖院」の紹介冊子（¥300）の飛鳥・白鳳時代の項に「天武 白鳳五年（668）役行者弥山において修行」とあります。ちなみに厳島神社の創建は同時代の「推古 即位元年（593）」です。

A19:「虚実合わせて3回ほどあるようです。」

役小角は修験者であり、中世以降修験道の開祖と言われています。修験者とは、修行を積むことによって験を修め、加持祈祷に秀でた密教僧をさす言葉です。古来靈地とされた山岳が験を修める場所で、山岳に起居して修行したことから山臥（さんが）・山伏とも呼ばれます。また験を修めるための方法（道）が定められ、集団ができて修験道となったのです。道の構成要素は、神道（日本古来の山岳信仰・自然信仰）と外来の仏教（雜密：空海以前の体系化されていない密教）・道教（神仙術）の習合によるものです。

役小角が正史に現れるのは、「続日本紀」の文武天皇三年（699）五月二十四日条に「役君小角、伊豆嶋に流される。始め小角葛木山に住みて、呪術を以て弥（ほ）めらる。外從五位下韓國（からくに）連広足（ひろたり）が師なりき。後にその能を害ひて、讒（しこ：そしる）づるに妖惑（えいわく）を以ってせり。故、遠き処に配さる。世相伝へて云はく、『小角能く鬼神を役使して、水を汲み薪を採らしなむ。若し命を用ひずは、即ち呪を以って縛（しば）る』といふ。」とあるのが唯一のものです。

役小角は舒明（じよめい）天皇六年（634）大和國葛城上郡茅原（ちはら）の郷、加茂氏の家に生まれます。生まれつき知的才能に優れ、やがて仏教に深く思いを寄せ、若くして家を捨て葛城山に入り、それから三十余年にわたって、岩の洞窟を寝ぐらとし、藤や葛（かずら）を衣とし、松の葉や花の汁を食物とし、清らかな泉の水で淋浴するという、激しい苦行の生活を送ります。葛

城山では、孔雀明王の呪術を誦え、鬼神を使役する力、邪神を縛する力、空を飛行する力を体得しています。また金峰山（奈良県吉野山から大峰に到る連峰）では火炎を背負った忿怒の姿いかめしい金剛藏王権現を岩の中から湧出させ、その形姿にうたれた役小角は以後修験道の本尊とします。

「役行者本記（724）」によれば、天武天皇七年（678）八月、西国へ赴き、九州・四国の各靈山、厳島、大山・橋立・大江山などを巡り、十月下旬大峰に帰っています。これが紹介冊子に述べられていることのようです。しかし短期間に多くの場所へ行っているので、修行というより各靈地の視察か布教活動のようなものだったのでしょうか。

「日本靈異記（822）」他には、役小角は周りの鬼神たちに、「金の御嶽（みたけ：金峰山）と葛城の峰とに一つの石橋をかけ渡せ（約30km）」と命じ、役小角の従者前鬼・後鬼はこのことを鬼や天狗の住む諸国の靈場に知らせます。これによって金峰山に集まつた天狗は厳島の三鬼神ほか多数（32鬼・人？）でした。諸方から多数の石を集め、橋を作る作業は昼夜を通して行われますが、葛城の一言主神（ひとことぬしのかみ）は、「私の顔は醜いから、他の者に隨侍して昼間働くのは恥ずかしい」と語ると、役行者はこれを承知せず怒って一言主神を呪縛して深い谷につないだため、橋を造ることが中止となつてしまつたとあります。

三つ目は宮島の弁財天のことです。役小角と弁財天との係わりも著名で、厳島にも来ていることから、大願寺の弁財天と役小角との関わりがもっと語られていいはずです。弘法大師が役小角の高徳を慕つて一千日の行をしたと言われる天川（奈良県）の弁財天も有名です。

役小角は六十か六十八歳で亡くなっていますが、寛政十一年（1799）光格天皇より「神変大菩薩」の謚号を贈られています。

参考文献

- ・「鬼人 役行者小角」志村有弘
角川ソフィア文庫 平成13年
- ・「役行者と修験道の歴史」宮家 準
吉川弘文館 平成12年
- ・「役行者と修験道」久保田展弘
ウエッジ選書 2006年

「PVの会」の展示用パネル・パンフレットが完成しました！

懸案だった展示用パネル(枠付き・5枚)および公募観察会などにおける配布用の3種類のパンフレットが、大高下 AR さんなどの協力により完成しました。

パネルについては、展示会に出席できない会員もおられますので下記に転載します。



(実際の展示の模様)



なお パンフレット(活動紹介・新宮島八景・包ヶ浦自然歩道の3種類)のほうは、集まりの時に配布しますので遠慮なく申し出ください。

(広報部会)

「みせん・増刊号」

『入浜調査報告集

(その2)』発行

内容は、昨年12月7日に開催された「会員の集い」で発表された「入浜調査報告」を基にまとめられたものです。

従来の場合は増刊号を会員全員に配布していましたが、今回の増刊号については、ページ数が約70ページに及ぶこと(観測データーが増加したことによる。)から、経済事情などを考慮して次のように扱います。

① 正本を詰所に保管(両面焼き製本)

いつでも閲覧・コピー(コピー者が個人限りで使用の場合)可能

② マスターDVDおよびUSBメモリーを詰所に保管

いつでも自分のPC・DVD・USBメモリーに複写(複写者が個人限りで使用の場合)可能

なお 著作権はあくまでも著作者に有りますので、引用等の場合は当会に相談ください。また 詰所の環境省のカラー・コピー機によるコピーは遠慮ください。

(広報部会)

◇編集後記◇

昨今の高気温や集中豪雨に遭ってみると、やや将来に対して悲観的になってくる。地球温暖化などが、人間が作り出した文明の自然(環境)への挑戦(そうとしか思えない)結果だとしたら空恐ろしいことです。

この度の広島市安佐地区の被災者の皆さんには謹んでお見舞い申し上げます。幸い会員に被害がなかったのがせめてもの救いです。

(平田広)

瀬戸内海国立公園 宮島地区パークボランティアの会

事務局: 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)

広島市中区八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455